

平成28年度 第1回 アーバンデザインスクール 実績報告

平成28年11月12日

草津市総合政策部草津未来研究所
アーバンデザインセンターびわこ・くさつ

1. アーバンデザインスクールの目的

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）は市民・大学・企業・行政のそれぞれの立場の人々が気軽に立ち寄り、草津市の未来について自由に語り合う場として開設した。アーバンデザインスクールでは、アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）の企画や運営に積極的に関わり、専門家と市民の間のより円滑な意見交流をサポートする、媒介の機能を担う専門家の育成を目的とする。

2. アーバンデザインスクール内容等

初年度ということから、「アーバンデザインスクールを知る」をテーマに5回シリーズで実施する。全5回のコーディネーターは肥塚浩氏（立命館大学経営学部教授）。

各回スケジュールは以下のとおり。

機能	日時	内容
第1回	平成28年11月12日(土曜)	テーマ：「アーバンデザインセンターとは？」 講師：信時正人氏 (立命館大学デザイン科学研究センター客員研究員)
第2回	平成28年12月10日(土曜)	テーマ：「松山アーバンデザインセンターの運営」 講師：松本啓治氏 (愛媛大学防災情報研究センターアーバンデザイン研究部門教授)
第3回	平成29年1月14日(土曜)	テーマ：「UDCBKのコンセプトができるまで」 講師：溝内辰夫 (UDCBKシニアディレクター)
第4回	平成29年2月18日(土曜)	テーマ：「南草津駅の商業集積について(仮)」 講師：大橋康男 (草津市都市計画部まちなか再生課参事)
第5回	平成29年3月11日(土曜)	テーマ：「これからのUDCBKについて」 講師：及川清昭 (UDCBKセンター長・立命館大学工学部教授)

いずれも会場は市民交流プラザ中会議室で行う。

時間は午前10時から正午まで。

3. 第1回 アーバンデザインスクール概要

(1) テーマ・目的等

- ① テーマ：「アーバンデザインセンターとは？」
- ② 内容：日本初のUDCである“柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）の初代事務局総長として設立に関わったUDCの理念や、コンセプトについて
- ③ 開催日：平成28年11月12日（土曜）午前10時から正午まで
- ④ 開催場所：市民交流プラザ 中会議室（フェリエ南草津5階）
- ⑤ 講師：信時 正人 氏
（立命館大学デザイン科学研究センター客員研究員）
- ⑥ コーディネーター：肥塚 浩 氏
（立命館大学経営学部教授）

(2) 当日のスケジュール

14

アーバンデザインスクールの進め方

- 10:00 アーバンデザインスクールについて
- 10:10 「アーバンデザインセンターとは？」（信時正人氏）
- 10:50 論点抽出
 - 話題提供者と肥塚先生との対談による論点抽出
- 11:05 グループディスカッション
 - 3~4グループ（4~5名）に分かれ、論点について議論
- 11:30 グループ発表（グループ×3分）
- 11:40 講評 話題提供者と肥塚先生より講評
- 11:50 アンケート記入等

4. 第1回アーバンデザインスクールの内容について

- (1) 信時正人氏（立命館大学デザイン科学研究センター客員研究員）による話題提供
テーマ：「アーバンデザインセンターとは？」（約40分間）



写真 1. 講義のようす

21世紀型社会について

- ・20世紀型

「ピラミッド型社会」・・・1つの企業が企画・運営を全て担い、企業同士で競い合いながら仕事を進める。

- ・21世紀型

「銀河系宇宙型社会」・・・個人や専門家がつながりを持ってプロジェクトを進める。個人のつながりの時代であり、SNSは重要なツールである。

デザインについて

- ・デザインとは単に色や形ではなく、社会のデザインや仕事をつくることなど広い概念である。（例えば“ライフデザイン”という言葉がある。）
- ・UDCでは建物を創るだけではなく、どういう仕事やコミュニティをデザインするかが重要である。

まちづくりについて

- ・まちづくりは都市づくりと産業づくりが連動した総合デザインであり、建物を建てるだけ、産業の発展だけ、コミュニティだけ・・・ではなく、全産業の連携が重要である。また、全産業をコーディネートする人材が必要である。

《まちづくりで大切なこと》

① 己を知る、そして誇りに思う（＝デザインの素材）

- 地域にどのような人たちが住み、どのような能力や志向性があるのかを知る。
- 地域のどこが好きなのかを知る。
- 地域の歴史、文化、環境を知る。

② 異分野・異業種の融合と協働（＝社会のデザイン）

- UDCにとって一番重要である。
- これまでは1対1の関係性であったものが、n対n（誰と誰がつながるか分からない）中での新たな関係性のつながりが必要である。
- 意図的ではなく、その場にいる者同士で新たなつながりができる場が重要。
- 異分野・異業種の立場の人々は価値観が違うが、根本的につながれる場にUDCがなるべきである。

③ 経営マインド（＝サステイナブルデザイン）

- 経営マインドが成り立たなければ、サステイナブル（持続可能）にならない。

UDCKでの活動等について

- 大学や企業と連携してセミナーやイベントを企画し開催する。
- 月に1回交流会を開き、いろいろな分野の人たちとコミュニケーションを図る。
- さまざまな分野のUDCが開設されたため、UDC間の情報交換とUDCに関わる人材の育成を目指し、「UDCイニシアティブ」の設立に向け準備中である。

(2) 論点抽出

信時氏と肥塚氏の対談による論点整理。（約15分間）

- UDCY（横浜市）とUDCSEA（横浜市）について補足説明。

UDCY

- 2008年4月に設立された。場所を有しない「ネットワーク型シンクタンク」が特徴。横浜市が創ったものではないが、市の職員が参加し、支援してもらっている。
- 横浜市の未来について都心・郊外・移動・緑地・環境の5つの分野に分けてさまざまな立場の人たちで議論し、その中で出た意見を施策として実行した。

UDCSEA

- “国際海洋環境都市”として、海から見たまちづくりを考える。
- 海と陸がどう連携するかについて研究している。
- 市民やNPO団体と連携して運営している。

(3) グループディスカッション

4グループに分かれて「UDCBKをどのような場所にしたいか?」、「UDCBKに期待する成果は何か?」について議論。(約25分間)

4組のグループに分かれ、「UDCBKをどのような場にしたいか?」、「UDCBKに期待することは何か?」をテーマに各グループで議論し、意見を付箋やカラーマーカーを使って模造紙にまとめていただきました。



写真2. 各グループの話し合いのようす



写真3. グループのまとめ

(4) 各グループのまとめを発表（1グループにつき3分間）

各グループの意見

- ④ ・今すぐできる取り組みとして「自分事のまちづくり」。
- ・将来的には既存の地域にある組織と連携していくことが必要。
- ・地域の情報を共有できるプラットフォームがUDCBKではないか。



写真4. 各グループの発表のようす

⑤ UDCBK でできることを4つに分類

- ・情報発信
- ・情報収集・集約
- ・人脈形成
- ・相談・コーディネート機能

やりたいことや個人の専門性を発揮する場、草津市の良さを発信する場、関心事を繋げる場、情報を知る機会を作っていけば、UDCBKは良くなるのではないか。

⑥ どのような場にしたいか、どのような価値が生まれるかをそれぞれまとめる

- ・夢や思いを持っている人たちが偶然出会い、その中で課題を抽出し、行動（政策や活動）する、あるいは情報発信・共有する場となる。
- ・一連の活動の結果が成果になり、価値につながる。
- ・活動による成果の実感が、住みたいまちや草津市の誇りにつながる。



写真5.各グループのまとめ

- ⑦ まちづくりは草津市に必要なか？を論点に考える。
- 草津市は特に働きかけなくても人口が増えたため、増えた人口にあたる人々は草津市の歴史や情報をほとんど知らない。また、知らなくても生活に支障はない。
 - UDCBK の役割は、草津市の現状や歴史を市民に伝え、人と人とを繋いでいくことである。

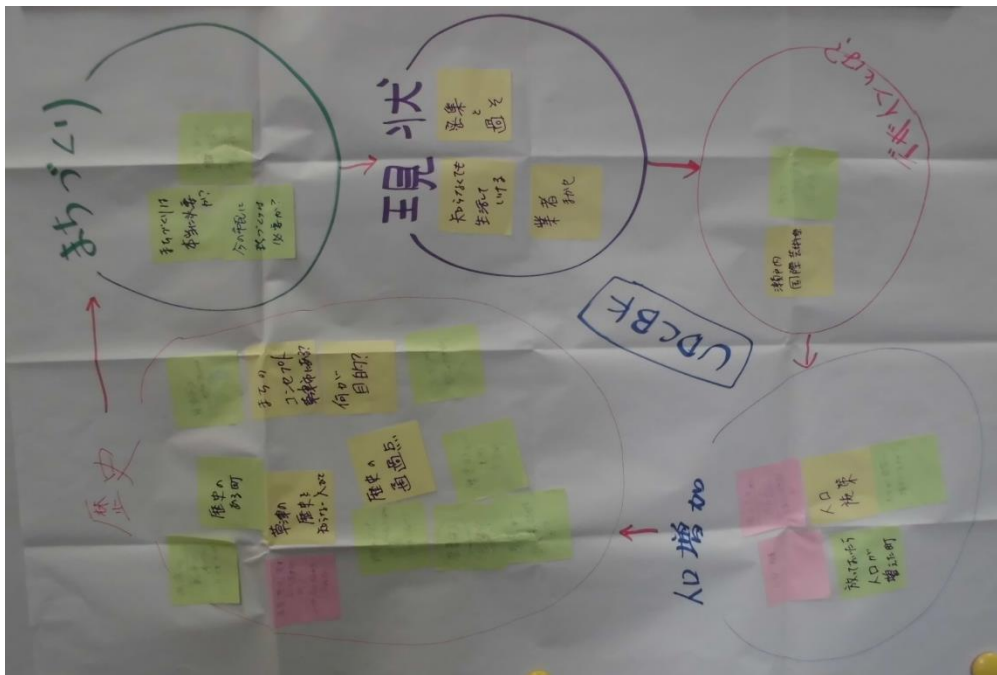


写真6.各グループのまとめ

(5) 講評

➤ 信時氏

- 「自分事のまちづくり」という言葉はそのとおりで、自分たちでやっていくことが重要。
- 人と出会い、知り合いになることは重要。意図的ではなく、UDCBK にフラットに来ていろいろな人に出会う、地域にどのような人がいるかを知ることが重要。
- 人と出会い、自分のまちについて知り、好きになり、まちを良くしていくためのアクションにつなげることが大事。
- 古い住民と新しい住民の対立についてはよく言われているが、住民同士に利害関係はないはず。イベント等を通して仲を深めていける。
- 短時間の議論であったが、いろいろなキーワードが出てきた。ぜひ UDCBK を盛り上げてほしい。

➤ 武田 UDCBK 副センター長

- UDCBK とはあらかじめ決まった形を作らず、みなさんと議論しながら一緒に創っていくものだと思う。今回のように UDCBK にとって何が必要かを議論する場が理想的な形だと思う。

➤ 肥塚氏

- 第 1 回目である今回は UDC の総論について議論した。2 回目以降は具体的に運営やプログラムについて議論したいと思う。

5. 第1回 アーバンデザインセンターとしてのまとめ

▶ アンケート集計結果

参加者数 22 名に対して、アンケート回収数は 18 件でした。回答率は 82% でした。

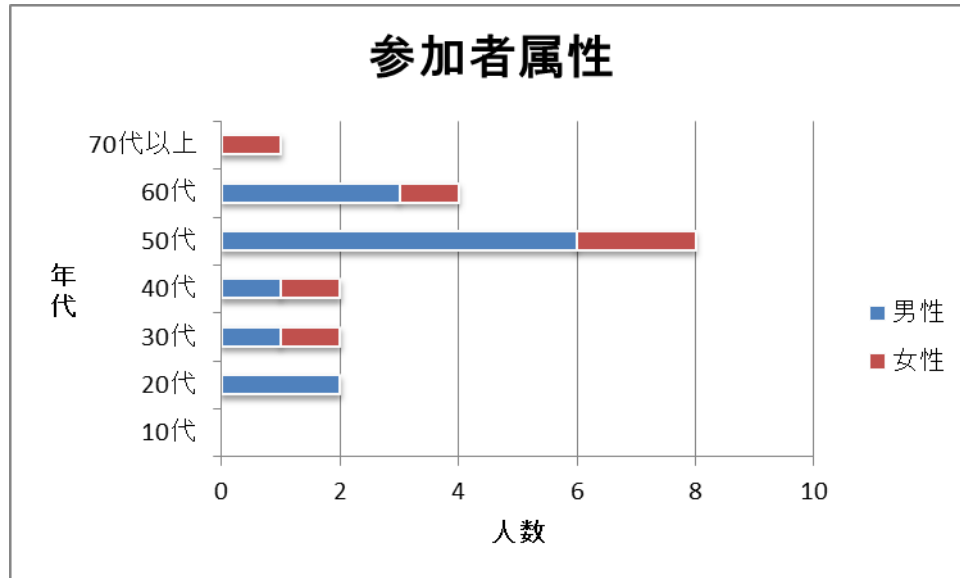


図 1. 参加者属性（アンケート結果）

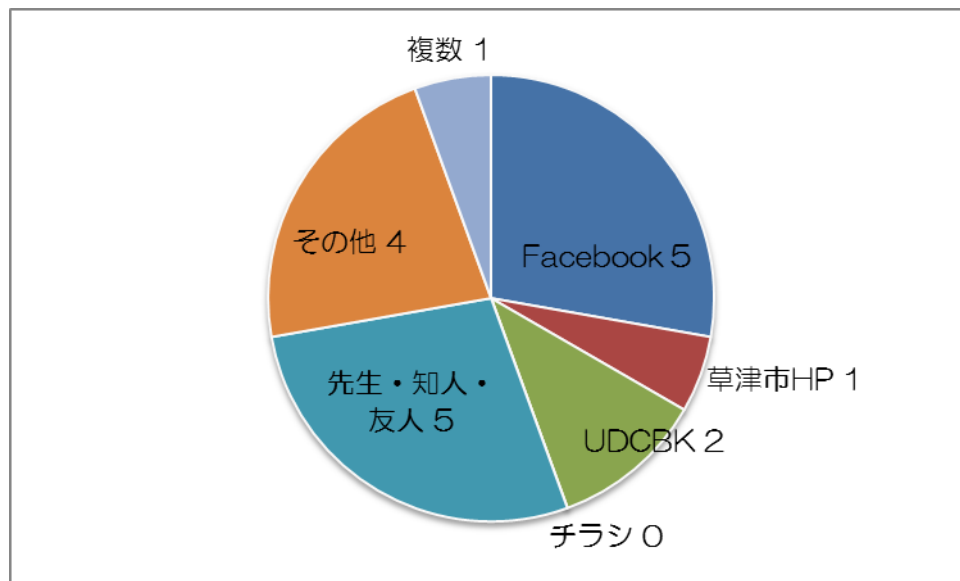


図 2. セミナーを知ったきっかけ（アンケート結果）

50 代の参加者が多く、男性が多い結果となりました。

また、Facebook でセミナーを知った参加者と同数で、知人等からの紹介で参加された方も増え、少しずつ UDCBK での取り組みが広がっていることが分かりました。

➤ セミナー参加者の主な意見

- 面白かったです。“UDCBK とは何か”を知るのにとっても良い機会でした。
- たいへん中味の濃い会でありました。信時さんの活躍ぶりが良く理解できました。草津のまちづくりは滋賀県、日本の将来にとっても大切な事だと思います。
- より多くの皆様に知ってもらうことに対してはどのようにされていかれるのでしょうか。
- スクールのキックオフとしてとても楽しい会となった。アクションに是非つながっていければ幸いです。
- セミナー内容もよかったが、同じことに興味を持っている人と出会えたことがよかった。
- 地域の方とまたつながることができました。これから UDCBK の企画をするにあたってさまざまなことができそうだと感じた。
- 草津（滋賀）で感じたこと（暗黙知）を、草津市民と交流してお互いの思いをぶつけ合い（「共同化」）、それを基にコンセプトをつくり（「表出化」）、市民や専門家もつ知識とコンセプトとを連結させて新規アイデアをつくり（「連結化」）、そして参加したみんなが学習し、さらに新しい課題を学ぶ場に UDC がなれば良いのかなあと思いました。

➤ UDCBK としての成果

UDC のミッションは、従来の行政主導市民参加ではなく、市民主導行政参加であり、対話の中から、様々な活動を生み出していくこと、がワークショップ等を通じて理解いただけました。

➤ 今後の課題

一方で、産学公民様々な立場の人が気軽に自由に対話して、未来の草津のまちのデザインについて考えていくプロセスを確立する必要性を感じました。